

改訂第7版の序

本書は、使用頻度が高くエビデンスのあるレジメンを選択し、レジメンごとに投与スケジュール、チェックすべきポイント、副作用対策、服薬指導のポイントなど医療者が知っておくべき内容を薬剤師の視点で丁寧に解説しています。そのため、病院や薬局でがん医療に関わる医療者をはじめ、医学生や薬学生などのがん医療の初学者にも活用されています。

近年、免疫チェックポイント阻害薬の登場で、がん治療も大きく様変わりしています。免疫チェックポイント阻害薬は、これまでの抗がん薬とは全く異なるメカニズムで作用するため、がん免疫療法の新たな時代が訪れたと言われていています。今回の改訂では、多数の免疫チェックポイント阻害薬のレジメンを追加しました。

一方、薬剤師による継続的な服薬状況の把握や服薬指導の義務が法制化され、今まで以上に患者への関わりが重要になりました。また、がんの専門医療機関連携薬局の認定制度もスタートし、医療機関と薬局との連携の重要性が高まっています。両者で患者をケアすることで、がん薬物療法をより効果的に、より安全に施行することになり、患者の安心につながります。医療者には適正なレジメンの理解とそれに基づく十分な介入が求められています。

がん薬物治療の実施や患者への介入において、本書を利用していただくことで、標準療法が適切に行われ、さらにはがん薬物療法の質の向上につながることを願っています。

2022年2月

一般社団法人 日本臨床腫瘍薬学会
監事 遠藤 一司